



**金沢人(ビト)育成事業**  
～受け継がれる工芸文化の魅力を感じて～

【事業の内容】

金沢は総合芸術とも言われる茶道を通じて食、工芸、作法、儀礼などの独自の文化を育んできました。

青年経済人が金沢の強みである**文化の素晴らしさ**を認識し、**文化について考えるきっかけ**となることを目的に全6回の研修を行いました。

5月 金沢の歴史・**茶道**の歴史を知る

6月 **和菓子**文化の歴史を知り・和菓子製作体験

7月 金沢の伝統工芸の歴史を知り・**金沢蒔絵**製作体験

8月 夏の風物詩**川床にて加賀料理と芸妓**体験

9月 朝からはじめる大人の寺子屋事業 / 金沢の**寺院文化と茶道文化**体験事業

10月 **九谷焼**の歴史について学び、九谷焼絵付け体験

【事業の効果】

これまでなんとなく知ってたけど触れる機会がなかった伝統文化・伝統工芸に触れ合うことで青年経済人としての**教養を高め**、地元の文化の素晴らしさを再認識しました。体験者のほとんどが工芸・文化に対する興味を高めました。

加賀藩前田利家の金沢入城から**400年以上続いてきた工芸・文化の魅力**を感じ、我々**若者世代にも受け継ぐ**きっかけになることができました。



5月 日本茶テイasting講座



6月 和菓子製作体験



7月 金沢蒔絵製作体験



8月 川床加賀料理・芸妓体験



9月 寺子屋ヨガ体験



10月 九谷焼絵付け体験

# 柏崎名古屋横断 ウルトラクイズDX



## 【事業の内容】

柏崎刈羽地区の同世代の青年経済人が集まる周辺組織と一緒にDX推進のきっかけを作ること、周辺組織との連携の足掛かりとして交流の場を作ることを目的にしました。

### ●第一部 委員会発表

まずはデジタル技術に対する抵抗感を無くすために、なるべく簡単な言葉を使用して興味を持てることができるように委員会発表を行ないました。DXについて学ぶことへの関心を高め、DX推進の趣旨を理解してもらうことを目的としました。

### ●第二部 クイズ大会

各団体混合の1チーム5名のチーム戦としました。クイズはLOMメンバーへの事前アンケートの回答を基に作成し、よりメンバーにとって身近に感じるような内容を取り入れることで、社業のDX推進について考えるきっかけになりました。さらに講師より解説をしていただき知識を深めました。

### ●第三部 結果発表・総括

## 【事業の効果】

昨今の人口減少・高齢化による労働人口不足という社会課題を前にして、DXの推進がその課題の解決策となる可能性がある一方で、日本の中小企業においてはデジタル技術への理解が未だ不足しているという問題を背景として、企業がより良いビジネスモデルを構築するための第一歩として、デジタル技術への抵抗感をなくし、少しでも理解を進めることを目的としていました。さらにあらゆるリソースが縮小していく中で、今後DXの実現だけでは組織の運営や活動が難しくなることも考えられることから、周辺組織との交流も目的としていました。

クイズ大会前の委員会発表では、ポイントを絞り、なるべく簡単な言葉と写真やイラストを多く使用したことでDXの導入として学ぶことへの抵抗感をなくすことができました。参加者が興味を持ち自身の問題と認識できるように、クイズの内容は、面白そう、やってみたいと興味を持ち身近に感じてもらえることを意識し、具体的な事例を織り交ぜるようにしました。特に、DXというテーマの特性上、とすれば、「難しくよくわからない」「自分の会社・業種には関係ない」「自分の会社の規模では不可能だ」などと先入観をもってしまいがちですが、より身近で具体的な事例をクイズにしたことで先入観をなくすことができました。交流に関しては、各団体の混合チームにし、クイズに記述式問題も取り入れることでチーム内での話し合いの時間を多く取ったことで参加者が自発的に盛り上がり交流することができました。

今回の事業では、まさに、参加者全員がDXについて興味を持ち、DXの推進を自身の問題として捉えるためのきっかけとなり、また周辺組織との連携の足掛かりとなりました。



『アメリカの大手スーパーマーケット・チェーンで販売データを分析した結果、顧客はおむつとXと一緒に買う傾向があることが分かった。そこでこの2つを並べて陳列したところ、売上げが上昇した。』Xに入るのは次のうちどれでしょうか。(3分)

A: オレンジジュース    B: 石鹸    C: 食パン    D: ビール ?

答えはD: ビール!!!  
人が考えても出ない答えが分析だと見つけ出せる  
仮説できないこともデータを分析してそうであれば次のアクションも見えてきます

意味上の関連性は  
どう考えても  
ない...よね?

意味は無視して「一緒に買っているもの」という  
価値で分析するとこの情報を見つけることができる

事前アンケートの結果からメンバーのお悩みを基にクイズを作成しました。  
講師のお2人より事例を交えて解答の解説をしていただくことで、DXについてより身近に感じてもらい面白そう、と関心を持ってもらえました。

こんなクイズを  
やったよ!



講師に公益社団法人名古屋青年会議所より  
2022年度DX推進委員会  
委員長水谷先輩、日野君をお招きしました



クイズの解答はチーム内で話し合いをしてもら  
うことで、参加者が自発的に盛り上がり交流で  
きました!



- 柏崎青年工業クラブ
  - 公益社団法人名古屋青年会議所
  - 観光庁
  - 新潟ブロック協議会
- の皆さまよりご参加いただきました



## 提言～誰もが輝けるために～

### 【事業内容】

諏訪圏域内における更生保護を含む社会保障対象者の現状把握として、障がい者と更生保護対象者の雇用について調査・研究を行った。結果、行政や各団体との連携が不足していることを始め、縦割りの組織となっていることや個人情報保護の観点から共有が難しいことも多く、非常に難しい問題が存在していることがわかった。「誰もが輝けるまちにする」ために、現状の課題整理を行い、行政や各関係団体、関係者に向けて、今後諏訪圏域内において支援を必要とする方への支援体制をより良くしていくための連携強化、連携構築が必要であるということ「提言」として行い、周知を行った。

### < 提言書提出先 >

長野県知事、岡谷市長、諏訪市長、茅野市長、原村長、富士見町長、下諏訪町長、報道関係各位、6市町村社会福祉協議会、各地区更生保護協力雇用主会、各地区保護司会、岡谷BBS会、各地区更生保護女性会、諏訪地区更生保護サポートセンター、すわーくらいふ、弁護士会、医師会、各地区児童相談所、諏訪地域振興局、諏訪圏域障がい者総合支援センターオアシス

### 【事業の効果】

本事業は、誰もが輝けるまちにするために、更生保護を含む社会保障に焦点を当て、社会的弱者に対する理解や支援を推進するために調査研究を行い、具体的な支援を広めるために提言書にまとめました。今回の提言により、諏訪圏域において更生保護、社会保障を必要とする方がより「輝けるフィールド」に立つための一助となりました。メンバーにとっても包括的な支援ができる枠組みについて理解を深める事ができました。



長野県庁を訪問し、県知事に今回の提言書を提出しました。提言書提出を受け、県としての社会的弱者に対する支援について議会で取り上げていただきました。



関係団体や行政を巻き込んだネットワーク構築についてのセミナーを行い、調査研究内容について記者発表しました



6市町村の組長はじめ、関係団体への提言提出についてメディアに取り上げていただきました